

リレーおぴにおん

中学受験すれば能力あがる

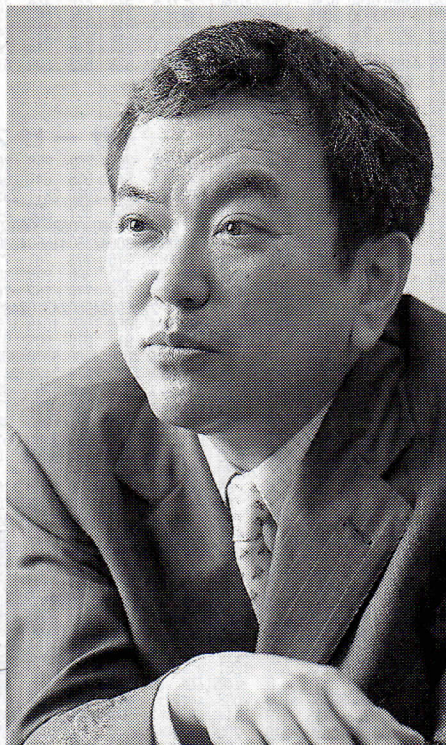
子どもと受験③

いまの中学受験がぼくらのころと違うのは、「お受験パパ」がいることです。彼らは自分が私立の中高一貫校出身で、自分に受験経験があるから、ノリノリで子どもと勉強しちゃうんです。「私立の6年間があったから、今の自分がある」という思いを持っていますから。

あなたは私立の中高でした？ そりゃあ、有名私立に行ってもいいめはありますよ。ぼくだって灘でいじめられた。でも6年いると、友だちをつくりやすい。授業も中高一貫の方が前倒しでやるので大学受験には有利です。お受験パパは、それを知っているんですね。

もともと母親の大多数は中学受験派です。「ゆとり教育」で大丈夫だろうとか、いじめが不安だとか。公立出身の夫が反対しても「中学は私立」という妻は多い。

それに、昔と違って今の子どもをとりまく環境は「中学受験をした方



＝東京都文京区、鈴木好之撮影

難校、東大医学部出身の精神科医で
受験アドバイザー

和田 秀樹さん (50)

2010/4/7/9

がマシ」なんです。ぼくらのころは外でのびのびと遊べた。男の子だったら原っぱで野球やったり路地でベーゴマしたり。でも今の子どもって、放ると一日中、部屋にこもってゲームしたり漫画読んだりしちゃう。親が勉強よりコミュニケーション能力

スカレーターのように中学に入れば大学受験しなくていいかというと、ぼくの答えはノーです。中学受験は親や塾の言うとおりでいいかもしれない。でも大学受験は、どこに行くか、どの参考書がいいか、考えて行動しないといけない。たとえスカレーターの学校にいても、人生の節目でやるべきことがあると思うんです。世界はどんどん「試験社会化」しています。経済協力開発機構（OECD）が大学生対象の学力テストを作るといふ話もありますし、国内でも就職用の業者試験が一般的になるかもしれません。アジア諸国の子どもたちは試験に追われているし、インドはその最たるものです。日本だけ取り残されているのでしょうか。

たとい私立中に受からなくても、地元の中立中では受験しなかった子どもよりはるかに来ます。この差は大きい。知識社会と言われ、能力を高めることが強く求められる時代です。勉強する能力は将来、必ず役に立ちます。

第1志望に受からなくても、挫折感なんて感じないようにさせる。親の腕の見せどころです。そして6年後に東大に入り、リベンジすればいい。例えば東京なら開成の下位にいるより、第2志望だった海城の上位にいる方が東大に入れるでしょう。

目標は高く設定したほうが高い学力が身につくことが多い。東大、東大って世間は騒ぎますが、あそこは毎年3千人入るんです。「並のエリート」を養成する大学です。やり方さえ工夫すれば、努力さえすれば、手が届くはずなんです。

中学受験で心配なのはむしろお母さんです。「受験命」とのめり込んで、受かったあと抜け殻みたいになってしまふ。お母さん、自分の「五月病」には気をつけてください。

(聞き手 編集委員・刀称館正明)